

ぽーれぽーれ(Pole pole)
スワヒリ語で
「ゆっくり…」
という意味です

ぽれぽれレター

院内での市民公開講座が開催されました



理念

「人よりそつ ひらかれた病院」

病院基本方針

※安心・安全ながん医療を提供します
※医療提携を進め、地域医療に貢献します
※豊かな人間性を持った医療人の育成に努めます

診療案内

内科, 外科, 脳神経外科, 整形外科
耳鼻咽喉科, 婦人科, 泌尿器科
放射線科, 消化器科, 緩和ケア科
乳腺外科, 腫瘍外科, 腫瘍内科
歯科, 口腔外科

【診療受付時間】

平日 午前8:30~午後4:00

土曜 午前8:30~正午

【診療時間】

平日 午前9:00~午後4:00

土曜 午前9:00~正午

【外来の休診日】

日曜・祝日・年末年始

【お見舞い時間】

ホームページをご確認ください

●痛みと上手に付き合うために

市民公開講座の第一部では薬剤部の後藤一馬主任が、「痛みの仕組みと薬の使い方」についてお話ししました。痛みは、けがや病気で受けた刺激が神経を通過して脳に伝わることで感じます。原因は熱や強い衝撃、腫れなどさまざまです。

痛み止めには、脳で痛みを感じにくくするカロナールなどのアセトアミノフェン（小児にも安全だが炎症には弱い）と、けが部位の刺激を弱めるロキソニン（ロキソプロフェン）やボルタレン（ジクロフェナク）などがあります。

痛み止めの種類①

刺激を痛みと認識させにくくする
・カロナール（アセトアミノフェン）

痛み止めの種類②

けが部位の刺激を弱める
・ロキソニン（ロキソプロフェン）
・ボルタレン（ジクロフェナク）
・セレコックス（セレコキシブ） など...

錠剤や坐薬は全身に効きますが、胃を荒らす、腎臓に負担がかかるなどの副作用があります。湿布薬は副作用はほとんどありませんが、貼った部分のみに効きます。後藤さんは「薬は回数や用量を守り、症状に合ったものを選ぶことが大切」と強調。市販薬と病院の薬の違いや、長期使用の注意点についても説明され、安心して痛みと向き合うための知識を深めました。

●人間ドックで未来の健康を守る

市民公開講座の第二部では健診センター長の谷村光啓医師が市民に向けて人間ドックの意義を解説しました。人間ドックは健康状態を包括的に調べ、がんや生活習慣病などの早期発見に役立ちます。基本コースでは身長・体重、血圧、血液検査、画像検査などを実施し、必要に応じて内視鏡やMRI、PET-CTなどのオプションも追加可能です。高血圧や糖尿病、脂質異常症などは自覚症状がなく進行し、心筋梗塞や脳卒中の原因となりますが、定期的な受診で予防や早期治療が可能です。

★ 新任の先生からご挨拶 ★



健診科 谷村 先生

本年1月より健診センター長として勤務させていただいています。昨年末まで約25年間、循環器内科医として二次救急病院で従事してまいりましたが還暦をむかえたことを機に転職を決意いたしました。これまでと全く異なる予防医学という新しい分野での業務となりますが、関係各部署の皆様のご協力をいただきながら、これまでの臨床医としての経験を活かし、地域住民の皆様の健康促進に貢献できるよう尽力してまいります。どうぞよろしくお願いたします。

年齢と検診項目	
年齢	推奨項目
20~30代	基本健診、子宮頸がん
40代	特定健診、人間ドック がん検診（胃・大腸・肺・乳）
50代以降	前立腺がん、脳ドック、骨塩定量

早期がんの治療費は進行がんに比べ大幅に少なく、長期的には医療

費削減にもつながります。谷村医師は「人間ドックは未来の自分への投資。適切なタイミングで受け受診後の生活改善も大切」と呼びかけました。



雑誌『頼れるドクター』に当院が掲載されました



2025年5月に発行された『頼れるドクター 北摂 /2025-2026版』に、「切らずに治す」に重点を置くがん専門病院として中村病院長のご挨拶とともに彩都友誼会病院が掲載されました。またこの本の医療トピックスのページには、当院が行う「がんの放射線治療」が取り上げられています。このページでは関西放射線治療センター長である高橋正嗣先生が放射線治療のポイントをわかりやすく説明した記事が掲載されています



彩都西小学校の子供たちが町たんけんてで当院を訪れました

6月末、彩都西小学校の2年生約30名が、「町たんけん」の一環として彩都友誼会病院を訪れました。感染対策や院内の静けさを保つため、院内の見学は行わず、正面玄関前にて看護部長と医療技術部長が子どもたちの質問に答える時間を設けました。看護部長は、手作りの紙芝居を使って病院のしくみについてわかりやすく説明し、子どもたちからは

「お仕事でたいへんなことは何ですか？」
「私たちにどんな人になってほしいですか？」
など、元気いっぱいの質問がたくさん飛び出しました。

病院は、子どもたちにとっては少し緊張する場所かもしれませんが、みんな目を輝かせながら話を聞いてくれて、とてもにぎやかで楽しい時間となりました。

今回の町たんけんが、子どもたちにとって貴重な経験となり、将来の夢につながるきっかけになればうれしく思います。



編集後記：今年も暑い日が続いています。まだまだ残暑は厳しいですが、体調管理に注意して乗り切りましょう。（村井）

発行者：中村仁信（病院長）
編集長：福西康修（放射）
編集委員：村井祐子（医師）林志保（看護）日吉華代（看護）大橋香音（地域連携）
藤尾美優（医事課）若月美月（放射）
〒567-0085 茨木市彩都あさき7丁目2番18号
Tel 072 (641) 6898 Fax 072 (641) 6097



<https://www.saito-yukoukai-hp.jp/news/pole/>
「ぼれぼれ」はホームページからダウンロードできます！